千年の森便り No.238

2023.9.2

ちば千年の森をつくる会

http://toyofusajima.html.xdomain.jp/

代表　福島成樹　　編集　真鍋昌義

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

8月20日（日）天候 晴れ

７月の活動に続き、８月も熱中症警戒アラートが出る中での活動となりました。今回の活動は、千葉県立中央博物館の吹春先生をお招きし、公開行事として一般の参加者を迎えて夏のきのこ観察会です。しばらくまとまった雨は降っておらず、きのこの発生にはかなり厳しい状況でしたが、硬いきのこに詳しい中島さんにもご参加いただき、硬いきのこも含めていろいろなきのこを観察することができたので、何とか観察会になりました。吹春先生ご夫妻、中島さん、ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

また、観察会のサポートをしていただいた会員の皆様、特に一足先に行って駐車場の草刈りをしていただいた久我さんご夫妻、苅米さん、畑でとれたカボチャやクウシンサイをご提供いただいた坂本さん、ありがとうございました。

参加者は、秋元、伊藤、鵜沢、大原、苅米、久我夫妻、坂本、竹下、森田、福島の会員 11 名と、一般参加の 10 名、吹春先生ご夫妻の合わせて 23 名でした。（福島）

水位が下がり島が出現

採取したきのこを同定

観察会の準備で駐車場の草刈り

橋の下にも陸地が広がる

○きのこ観察会

9:30 に県民の森管理事務所の下の駐車場に集合し、一般の参加者の受け付けをしたあと、全員で豊英島に移動しました。広場に集合して簡単な案内をしたあときのこ採取のスタートです。10 時頃からお昼まで、いくつかのグループに分かれて島内を探索しきのこを集めました。

お昼に広場に戻ってくると、テーブルの上にはいろいろなきのこが並んでいました。お昼ご飯を食べながらすでにきのこ談義が始まっています。高温、乾燥のお天気から予想していた通り見つかったきのこの量は少なかったものの、今回は硬いきのこに詳しい中島さんにも参加いただいているので、硬いきのこも合わせて採取し、多くの種類が集まりました。

中島さんからは、「たのしい硬質菌類チートシート」という資料の配布がありました。今回の観察会用に作っていただいたものです。硬質菌の仲間ごとによく見られるものか珍しいものかが一目でわかります。あとで詳しく見たら、非常に情報量が多い素晴らしい資料であることに気づきました。残念ながら私には全部を理解する力はありませんが本当に感謝！です。硬質菌の解説もありがとうございました。

吹春先生からは、「顕微鏡をつかわないやわらかいきのこのわけかた」という胞子の色を中心にきのこの形（傘、つば、つぼ）の特徴から見分ける資料に沿って解説していただきました。今回の観察会では、やわらかいきのこは数が少ない上に傷んでいるものが多く、特徴を確認して見分けるのはなかなか難しい状況でした。その中でも印象に残っているのは、ニガイグチモドキの傘の裏が紫色（今回は幼菌だったのでかなり濃い紫色）に見えるのは管孔の穴の縁（孔口）が紫色であるからで、管孔自体は肌色（淡紅色）という話と、テングタケの仲間のアオミドリタマゴテングタケは、千葉市で発見されて最近記載された種で、豊英島でも同じものが見つかったという話でした。吹春先生、奥様、今回もありがとうございました。

また、今回のきのこ観察会の開催に当たっては、豊英島（県有林）を管理している千葉県中部林業事務所の皆さんにもいろいろお世話になりました。ありがとうございました。（福島）

駐車場に集合

水位が下がった豊英湖

きのこの同定

きのこ研究家の少年

ニガイグチモドキの管孔（吹春先生提供）

セミノハリセンボン

アオミドリタマゴテングタケ

ベニイグチ

○豊英島の「顔」となる硬いきのこ（中島淳志さん）

おおむね昨年 10 月と同じ種類が見られましたが、新たに見られた興味深い種には「カイメンタケ」がありました。カイメンタケはもっと標高の高い地域で見られる印象があり、実際に GBIF データでも富士山から中央高地にかけて主に採集されているようです。しかし、千葉県からも既に佐倉、船橋、大多喜から計 5 件の記録がありました（全て千葉県立中央博物館所蔵）。

また、昨年 10 月に仮に「ダエダレア・クエルキナ？」と同定したきのこですが、その後参加者の木原さんから情報を頂き、「オオミダレアミタケ」と同定するのがより妥当と考えました。今回もこの種の子実体が複数見られました。GBIF でオオミダレアミタケを検索してみると、日本からの記録は 1987 年～1990 年にかけての千葉県からの 3 件のみで、全て市原市または君津市からです。解説の際に、オオミダレアミタケは豊英島の「顔」となる種として重要ではないかとお話ししましたが、記録を見るとさらにその確信が強まりました。この珍しいきのこに注目し、これからも貴重な生息地を保全していただければ幸いです。

観察記録を iNaturalist に投稿いたしました。右の QR コードからもアクセス可能です。

https://www.inaturalist.org/observations?place_id=any&q=Toyofusa202308&search_on=tags

中島さんによる硬いきのこの解説

硬いきのこ

オオミダレアミタケ

傘の裏の拡大

○硬いきのこに挑戦

硬いきのこを研究されている中島さんの採集に同行させてもらいました。島内の至る所に散在する立ち枯れ木や倒木には研究対象と思われる硬いきのこが大発生していますが、それらは一瞥すれば分かるらしく、落ち枝や倒木をひっくり返して裏側を熱心に覗いていました。見えないところでひっそりと暮らしている種に興味があるようです。

同定会では採集したきのこをについて、丁寧に解説して頂きましたが、聞きなれない名前や用語が多く、私の老朽化した脳はたちまちパニック状態に陥りました。その中で、一晩過ぎて思い出せるのは、

①硬質きのことは日本における独特な分類で学術的な用語ではない。これに該当する英語も見当たらない。

②同定に当たっては希少種を考えず普通種から絞り込むのが良い。

③図鑑に載っている写真は生長段階の一瞬を写したものだから、目の前の現物と一致するとは限らない。図鑑による同定はかなり難しい。

④傘の裏には同定に必要な情報が多いので、表ばかり見ないで裏も観察すること。

⑤枯れ木に最初にとりつく菌、腐朽が進んでから次にとりつく菌へと種類がリレーする。

中島さんには横浜から遠路お越し頂いてあれほど熱心な解説をしていただいたにも拘わらず、一割も覚えられなくてすみません。これに懲りず今後もご指導のほどよろしくお願いいたします。吹春先生にも毎度お世話になりありがとうございます。（坂本）

ホウロクタケ

枯れたコナラにびっしりハカワラタケ

サガリハリタケの傘の裏

ワヒダタケの裏は同心円状

○禁断の岬にカイメンタケ！（木原正博さん）

昨年 10 月に続いて２度目の観察会。今回はあえて一人で、「ブーメラン」の３つのブレードの各先端近くまで歩いて、ようやく島の形が頭に入りました。そして、禁断の岬近くの倒れた松の根方で見慣れぬきのこを見つけて持ち帰り、中島さんに尋ねると――「カイメンタケですね。こんな標高の低い所で見たのは初めて」と。そうか、カイメンタケ！ 実は僕は今年７月、目黒区の駒場野公園でも見つけていたのに、ちょっとそれと色・形が変わっていただけで、もう名前が出てこない。やれやれ。勉強になります、豊英島！

カイメンタケ（左：豊英島、右：駒場野公園）

○夏のきのこ観察会に参加して（江田隆正さん）

豊英島に来たのは２回目で、前回は 19 年の８月の「夏のきのこ観察会」でした。その時も吹春先生の案内で島を一周し、きのこ探しをしたのですが、その際は前の週に地元の公園で初めてフラスを見つけ、ナラ枯れ被害木のことが興味津々の時期でしたので、申し訳ないですがほとんどきのこのことは記憶にありません(笑)。今回は２回目なので、勝手に一人で島を散策して森の中を観察させていただきました。

左：豊英島のヒガンマムシグサ、

右：園生の森公園のマムシグサ

私は普段自宅の近くの団地に囲まれた里山のなごりで、20 年前に公園に整備された森林公園で保全活動を行っています。豊英島に比べ林の中は若干明るいので、夏の時期は下草が生い茂り、特にヘクソカズラなどのツル性植物が草木に絡みついています。しかし、この豊英島の森の林床は落ち葉の絨毯で夏草がほとんど見当たりません。下草の状態が全く違うことに気が付きました。毎月活動されている会員の方々の不断の努力の成果なのでしょうか？それとも光と水分量の差ですかね。知れば知るほどに謎が深まります。

きのこ観察について、吹春先生の楽しいお話に加え、今回は中島さんがとても素晴らしい資料をもってご説明くださり感動しました。きのこにはシイタケのようなヒダが必ずあるものと思っていたので、マンネンタケもただただ古く乾燥したきのこだと思っていました。マンネンタケは「硬質菌類」の分類で「きのこを観察する際には傘の裏側が重要」との話はとても興味深く、帰ってさっそく仲間に自慢します。(笑)

参考までに、園生の森公園の中でも一番暗いところに生えているマムシグサと、今回、私が豊英島で撮ったマムシグサの写真を送ります。

○8 月の植物と干潟の様子

７月の活動日から５週間ほど経ちました。集合場所の木のふるさと館第二駐車場（下段）ではクサギが満開（紅紫色の萼と白い花）となっており、上の段の林縁ではアカメガシワとシラキが果実をつけていました。

豊英湖の水面は７月よりも更に下がり、干潟には広々とした緑の草地が広がっていました。干潟にはネムノキ、クズ、アカメガシワ、タカサブロウ、センダングサの仲間、メヒシバの仲間などが早々に進出していました。

水面から露出した島は２つあり、５mほどの高さがありそうです。出現した島や干潟には立ち枯れた木が多数残されていました。昭和４４年にダムは完成したとのことです。５０年過ぎても木は朽ち果てることもなく魅力的な空間を作っていました。上高地の大正池では１００年が過ぎ、立ち枯れの木の数が減ってきて景観に赤信号がともっているようです。ここで見られるのもあと僅かかもしれません。

コナラ伐採地には２，３年ほど前から実生のクサギが大きく成長し、いつになったら羽子板の羽のような実が見られるのかと楽しみにしていました。この木の根元付近に数個の花が落ちていましたが、下から見上げても枝葉が邪魔をして花を確認することができませんでした。花が落ちていたことから、やっと花が咲いたようです。今年は果実を見ることができるかもしれません。また、この伐採地の木全体が大きく成長してきました。中高木区画の残す樹種の選定を行い、間伐等の作業を行う時期になってきているのかもしれません。また、低木草区画ではシロヨメナ、オトコエシが咲き始めました。前年の草刈りの成果が出ている様です。昆虫で写真にとることができたのはサトクダマキモドキ、コミスジ、ベッコウハゴロモです。キタキチョウ？は動きが早く逃げられてしまいました。保護柵外ではナガバノコウヤボウキが白い花をつけていました。　（秋元）

クサギ

クサギの花

アカメガシワ

シラキ

ネムノキ（干潟）

クズ（干潟）

アカメガシワ（干潟）

センダングサの仲間（干潟）

メヒシバの仲間（干潟）

タカサブロウ（干潟）

干潟の草地

オトコエシ

シロヨメナ

サトクダマキモドキ

ベッコウハゴロモ

コミスジ

○センサーカメラの動物たち

キョンの記録が増え、同時に２頭撮影されていることがありました。ニホンジカは１日と今回も少ないです。ニホンザルは１日の記録で入島のみでした。カメラの死角から島を出て行ったのでしょうか、つり橋に向かう姿の記録はありませんでした。

設置期間：６月１８日～７月１７日（日数は確認した日数で、同じ日に複数回記録されても１日としています）

ＣＡＭ１：吊橋着岸点付近

ハクビシン	６日	夜間	タヌキ	２日	昼間・夜間
アナグマ	６日	夜間	アライグマ	２日	夜間
キョン	１７日	昼間・夜間	ニホンザル	１日	昼間
不明	５日	夜間			

ＣＡＭ２：ホテイ岬への分岐点付近

ニホンジカ	１日	昼間	ハクビシン	１日	夜間
キョン	１７日	昼間・夜間	アナグマ	１日	夜間
カケス	１日	昼間	不明	１日	夜間

ＣＡＭ３：ホテイ岬先端付近

シジュウカラ　３日　昼間

（秋元）

キョン

ニホンザル

ニホンジカ

アナグマ

アライグマ

ハクビシン

シジュウカラ

〇次回の定例活動は９月１８日（月祝）です。

ニホンジカ生息状況調査、駐車場・電柵付近の草刈り、刈り払い機操作体験、危険木伐採を予定しています。
草刈りについては、今回刈れなかった部分を中心に行いたいと思います。
集合時間と場所は通常どおり、９：30 に君津市清和自然休養村管理センターです。
熱中症対策、ヤマビル、ダニ対策、ヘルメット着用を忘れずに。（福島）

吹春先生からご提供いただいた観察会で記録されたきのこのリストです（2023 年 8 月 20 日　豊英島）

●担子菌類
◆Agaricales ハラタケ目
〇Agaricaceae ハラタケ科
・[FB-48102]オオノウウタケ Calvatia boninensis
〇Amanitaceae テングタケ科
・[FB-48108]コササクレシロオニタケ？Amanita squarrosa
・[FB-48120]アオミドリタマゴテングタケ
Amanita griseoturcosa
・ツルタケ Amanita vaginata
〇Entolomataceae イッポンシメジ科
・イッポンシメジ属 Entoloma sp.
〇Hymenogastraceae ヒメノガステル科
・[FB-48105]チャツムタケ属 Gymnopilus sp.
〇Inocybaceae アセタケ科
・アセタケ属 Inocybe sp.
〇Mycenaceae クヌギタケ科
・[FB-48119]ワサビタケ Panellus stipticus
〇Pluteaceae ウラベニガサ科
・[FB-48107]ウラベニガサ属 Pluteus sp.
〇帰属科不明種
・[FB-48132]ヒビコウヤクタケ属の一種 Dendrothele sp.
・パイプタケ Henningsomyces candidus
◆Boletales イグチ目
〇Boletaceae イグチ科
・[FB-48104]キクバナイグ（広義）Boletellus emodensis
・[FB-48110]ベニイグチ Heimioporus japonicus
・[FB-48114]ウラグロニガイグチ Sutorius eximius
・ニガイグチモドキ Tylopilus neofelleus Hongo
◆Russulales ベニタケ目
〇Auriscalpiaceae マツカサタケ科
・[FB-48113]フサヒメホウキタケ Artomyces pyxidatus
〇Stereaceae キウロコタケ科
・[FB-48106]チウロコタケ Stereum gausapatum
・チャウロコタケ Stereum ostrea
・モミジウロコタケ Xylobolus spectabilis
◆Corticiales コウヤクタケ目
〇Punctulariaceae プンクツラリア科
・[FB-48127]ケシワウロコタケ Punctularia strigosozonata
◆Polyporales タマチョレイタケ目
〇Cerrenaceae ミダレアミタケ科
・[FB-48123]サガリハリタケ Radulomyces copelandii
〇Fomitopsidaceae ツガサルノコシカケ科
・[FB-48118]ホウロクタケ Daedalea dickinsii
〇Laetiporaceae アイカワタケ科
・[FB-48126]カイメンタケ Phaeolus schweinitzii
〇Meruliaceae シワタケ科
・ヒイロハリタケ Hydnophlebia chrysorhiza
〇Phanerochaetaceae マクカワタケ科
・カミウロコタケ Phlebiopsis crassa
・[FB-48128]キヒモカワタケモドキ Rhizochaete radicata
〇Polyporaceae タマチョレイタケ科
・[FB-48117]ウチワタケ Microporus affinis
・[FB-48131]ツヤウチワタケモドキ？Microporus longisporus
・[FB-48124]ヒイロタケ Trametes coccinea
・[FB-48100]チリメンタケ Trametes elegans
・[FB-48133]クジラタケ？Trametes orientalis
・[FB-48109]カワラタケ Trametes versicolor
・[FB-48116]オオミダレアミタケ Trametes vespacea
・[FB-48129]ベッコウタケ Vanderbylia fraxinea
〇Panaceae カワキタケ科
・[FB-48101]カワキタケ属 Panus sp.
◆Hymenochaetales タバコウロコタケ目
〇Hymenochaetaceae タバコウロコタケ科
・[FB-48121]ネンドタケモドキ Fuscoporia setifera
・[FB-48130]ワヒダタケ Hymenochaete cyclolamellata
・ダイダイタケ Hymenochaete xerantica
・[FB-48115]ネンドタケ Phellinus gilvus
〇帰属科不明種
・[FB-48112]ハカワラタケ Trichaptum biforme
●子嚢菌類
◆Helotiales ビョウタケ目
〇Helotiaceae ビョウタケ科,
・[FA-48111]ニセキンカクアカビョウタケ
Dicephalospora rufocornea
◆Pezizales チャワンタケ目
〇Pyronemataceae ピロネマ科
・オオゴムタケ Trichaleurina celebica
（材上の不完全世代 Kumanasamuha を観察）
◆Hypocreales ボタンタケ目
〇Cordycipitaceae ノムシタケ科
・[FA-48122]ツクツクボウシタケ Isaria cicadae
〇Ophiocordycipitaceae オフィオコルジケプス科
・[FA-48125]セミノハリセンボン
Purpureocillium takamizusanense
◆Xylariales クロサイワイタケ目
〇Hypoxylaceae アカコブタケ科
・クロコブタケ Annulohypoxylon truncatum
●変形菌類
・ムラサキホコリ属 Stemonitis sp.

※ 種の配列順は，担子菌類，子嚢菌類，変形菌類の順に．各分類群の目，科，属の順はアルファベット順とした．
千葉県立中央博物館（CBM)に保存した標本は，[　] 内に標本番号を表示した．
（主な同定者：中島淳志［硬質菌類，子嚢菌類］，吹春俊光［軟質菌類］）